

1 学校教育目標	
豊北高校	下関北高校
<p>〈めざす学校像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校訓(One for All ; All for One . 一自助 奉仕 創造-)の精神のもとに、感動と喜びを生む、「生徒一人ひとりが主人公」の学校 ・互いが切磋琢磨し合いながら、生き生きと活動する、活力ある学校 ・地域の信頼に応え、地域に愛される、開かれた学校 <p>〈育てたい生徒像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、判断し、主体的に行動できる生徒(自助) ・他人を思いやり、社会に貢献する生徒(奉仕) ・粘り強くやり抜き、常により高い自己をめざす生徒(創造) 	<p>〈めざす学校像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携・協働する教育活動の推進により、郷土への愛着と誇りを育み、未来社会に対応できる実践力を培う学校 <p>〈育てたい生徒像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢や希望をもって未来を切り拓く、確かな学力を備えた人材 ・郷土への愛着と誇りをもち、地域や人とのつながりを大切に作る心豊かな人材 ・主体性をもって多様な人々と協働して学び、地域の活性化や課題解決に貢献する人材

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
<p>①少人数・習熟度別授業などの「きめ細かい指導」が、生徒の基礎学力の定着や授業の満足度に結びついている。今後は、下関北高校の新しい教育課程への円滑な移行に努めていく。</p> <p>②校内外の挨拶運動や服装・頭髪指導など「きめ細かい指導」により、生徒は概ね落ち着いた雰囲気では学校生活を送っている。引き続き、小規模校の特性を生かした全校指導体制を充実させていくとともに、生徒会活動等の活性化により生徒の自主性を育てていく。</p> <p>③進路面談や個別指導の充実を図り、生徒の多様な進路希望に対応している。今後は、キャリア教育の各プログラムを生徒の現状を踏まえたものにより一層改善し、進路に対する意識啓発を進めるとともに、分掌・学年・教科の連携による、系統的な進路指導体制の充実を図っていく。</p> <p>④多くの生徒が部活動に所属しており、活動を通して人間的に成長していることから、部活動のさらなる活性化を図る必要がある。</p> <p>⑤「地域とともにある学校」を目指し、様々な地域連携の取組を実施するとともに、積極的な情報発信に努めている。今後は、コミュニティ・スクールの仕組みを活用した地域連携の更なる充実を図っていく。</p> <p>⑥下関北高校の開校による業務の増加が見込まれることから、既存の業務の効率化・簡素化等の推進による勤務負担軽減や職場環境の改善が必要である。</p> <p>⑦施設設備について、老朽化が進んでおり、営繕及び安全点検に努めるとともに、予算が必要なものは優先順位を明確にして県へ強く要望する。</p>

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題
<p>(1) 教育課程の特色を生かした学力の定着・伸長 少人数・習熟度別授業、学校設定科目などの特色ある授業の充実と新しい教育課程への円滑な移行</p> <p>(2) 基本的な生活習慣の確立とコミュニケーションスキルの養成 小規模校の特性を生かした全校指導体制の確立、教員と生徒とのふれあいと家庭・地域社会との連携、生徒会を核とした自主的な集団活動の充実、校内外のボランティア活動への参加促進</p> <p>(3) 3年間を見通した系統的な進路指導体制の確立 「さがす」(1学年)、「しぼる」(2学年)、「みきわめる」(3学年)、課外授業、朝学、小論文・面接指導の充実</p> <p>(4) 家庭及び地域社会と連携した学校内外の生徒の安全確保と情報発信 挨拶指導、校内・校外巡視の充実、生活・交通・災害安全教育の実施</p> <p>(5) 生徒の健康状態の把握と健康の自主管理能力の育成 定期健康診断結果の事後指導の実施、清掃活動の指導徹底、環境教育の充実、生徒の手による保健活動の充実</p> <p>(6) 体験を重視した活動の推進 部活動や文化祭・体育祭等の特別活動、ボランティア活動、体験的進路学習を通じたキャリア教育の充実</p> <p>(7) 地域と連携・協働し、地域の期待に応える存在感のある学校づくり コミュニティ・スクールの仕組みを生かした学校運営改善・地域人材による学校支援、学校による地域貢献</p> <p>チャレンジ目標: 相手より先にあいさつ。ありがとうから広がる学校の元気。</p>

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務	学習指導の改善・充実	○学習指導要領の改訂や高大接続システム改革に対応した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善(授業評価の活用、研究授業及び研究協議、校内研修会の実施)による学力の向上	4: 学習指導に対する満足度(生徒)が80%以上であった。	3	○ 英語・数学での習熟度別授業や、3年生に対する進路先に応じた個別指導など、少人数指導の長所を生かし個に応じたきめ細かい指導を行うとともに、授業アンケートの結果による検討から、各教科で学習指導の改善が行われた。(年間2回実施した授業アンケートでは、多くの教科で、「分かりやすい」と回答した生徒が増えた。)	○ 少人数指導による個に応じたきめ細かい指導がなされている。	A
			3: 学習指導に対する満足度(生徒)が70%以上であった。				
2: 学習指導に対する満足度(生徒)が60%以上であった。	○ 学校評価アンケートでは、本校の学習指導に対する満足度は生徒・保護者とも9割を超えている。	○ 地域と連携した特色ある教育活動に積極的に取り組んでおり、各種コンクール・コンテストにも多数入選するなど、学校の活性化につながっている。	A				
1: 学習指導に対する満足度(生徒)が60%未満であった。						4	○ 新高校の2・3年次で実施する学校設定教科「地域探究」について、内容検討委員会を組織し検討を進めた。 ○ 各教科等において、外部施設や人材を活用した授業や幼保・小・中学校と連携した授業、コンクール・コンテストへの積極的な応募など、特色ある教育活動が実施された。 ○ 学校評価アンケートでは、8割を超える生徒・保護者が、「本校では、他の高校では体験できない特色ある教育活動に取り組んでいる」と回答している。
新たな学校づくりの推進	○時代や地域のニーズを踏まえた特色ある教育活動の創造 ○新高校の2・3年次で実施する特色ある教育課程に向けた体制整備	4: 特色ある教育課程を先行して実施し、その魅力を地域に発信することができた。	3: 特色ある教育課程を先行して実施することができた。	2: 特色ある教育課程に向けた体制づくりが行われた。	1: 特色ある教育課程に向けた十分な体制づくりができなかった。		

生徒 生活を整える	○登校・昼休み指導や服装・頭髪等の指導など、きめ細かく組織的な風紀・安全指導による基本的な生活習慣の確立	4: 全教職員が協力した取組となり、十分な効果があった。	4	○ 登校指導を、毎週木曜日に生徒・教員が合同で実施した。また、毎週月・水・金曜日に、教員による昼休みの校舎内巡視を行った。 ○ 頭髪・服装検査を、年5回、学期はじめや衣替えの時期に、実施した。生徒の規範意識は、概ね良好である。 ○ 携帯電話・スマートフォン実態調査を、5月と9月に実施し、生徒の情報機器の利用実態を把握することができた。 ○ 学校評価アンケートでは、全ての生徒が本校のルールを守っていると回答している。また、9割を超える保護者が、本校の生活指導に満足している。	○ きめ細かく組織的な風紀・安全指導が行われており、大半の生徒は基本的な生活習慣が身に付いている。 ○ 町中で出会う生徒の様子を見ていると、生活態度が大変良いと感じる。	A		
		3: 生徒保健課や一部の教員による指導が行われ、ある程度の効果があった。					○ 各学期1回学校安全アンケートを実施し、生徒の人間関係と学校内外の危険箇所について調査をして、速やかに対応している。 ○ 教育相談委員会を毎月1回実施して、生徒の情報交換を行っている。 ○ 1学年については、4月当初にAFPY教室を、9月以降、スクールカウンセラーとの面談を全員に実施し、学校生活にスムーズに適應できるよう配慮している。 ○ 学校評価アンケートでは、9割を超える生徒・保護者が、本校の安全・健康指導に満足しており、学校生活に対する満足度も9割を超えている。	○ 各種アンケートの実施により生徒の実態を把握し、課題に対しては迅速に対応している。 ○ いじめの認知や防止に向けて、きめ細かい対応がなされており感心した。
		2: 不定期な取組に終わり、あまり効果がなかった。 1: ほとんど取組が行われず、生徒の規範意識が低下した。						
生徒 システムを整える	○豊北高校から下関北高校への移行期に当たり、「学校生活の決まり」等を再検討 ○いじめ防止基本方針に基づく取組の検証	4: 現状の実態把握がなされ、システムの検討が十分なされた。	3	○ 1学年は、今年度から教室のゴミ箱を小さくし、ゴミを出さない・持ち帰る指導に取り組み、成果をあげている。 ○ 生徒数が昨年度の142人から170人と1.2倍に増加しており、それに伴ってゴミの袋数も昨年度に比べ増加している。	○ 上級学校見学や各種ガイダンス等の体験的な進路学習が有効に実施されており、生徒・保護者の満足度も高い。			
環境を整える		各行事の片付け指導等を通じたゴミの分別収集の徹底とゴミ減量化への意識の向上				4: 現状の実態把握がなされ、システムの検討が多少なされた。 3: 現状の実態把握がなされ、システムの検討が多少なされた。 2: 現状の実態把握はなされたが、システムの検討がなされなかった。 1: 現状の実態把握がなされず、システムの検討がなされなかった。	1	○ 1学年は、今年度から教室のゴミ箱を小さくし、ゴミを出さない・持ち帰る指導に取り組み、成果をあげている。 ○ 生徒数が昨年度の142人から170人と1.2倍に増加しており、それに伴ってゴミの袋数も昨年度に比べ増加している。
進路指導	○有効な体験的進路学習の実施による進路意識の高揚 上級学校見学 進路講話 面接指導ガイダンス 職業理解ガイダンス 卒業生との交流会 受験体験報告会 等		4: 前年度に比べ、ゴミを20%減量した。 3: 前年度に比べ、ゴミを10%減量した。 2: 前年度に比べ、ゴミの量は変わらなかった。 1: 前年度に比べ、ゴミの量が増加した。	3	○ 体験的な進路学習を年間9回実施し、生徒の進路や自己の在り方生き方に対する意識の高揚につながった。 ○ 来年度に向け、より効果的かつ体系的なキャリア教育の実施と、業務改善の視点から、体験的な進路学習の実施時期・内容について検討している。 ○ 学校評価アンケートでは、生徒の9割以上、保護者の8割以上が、「体験的進路学習を通じて、進路意識が高まっている」と考えている。	○ 「進路だより」等を通じて進路情報を適切に提供するとともに、3年生の進路希望の実現に向けた指導を、全校体制で行っている。 ○ 生徒と教員が協力してよく取り組んでおり、3年生の進路決定もスムーズに進んだと感じている。 ○ 推薦入試で進学が決まる生徒が多いので、一般入試に挑戦する生徒がもっと増えるといい。		
		個別対応の強化による、進路に対する意識啓発	4: 「進路だより」を月1回以上発行し、「進路面談」を1学年で年1回、2学年は年2回実施した。 3: 「進路だより」を月1回以上発行し、「進路面談」を1・2学年とも年1回実施した。 2: 「進路だより」を月1回以上発行し、「進路面談」は1学年ではできなかったが、2学年は年1回実施した。 1: 「進路だより」を月1回以上発行し、「進路面談」を1・2学年とも実施できなかった。				3	○ 「進路面談」(1・2年生全員と進路指導課長の面談)による個人の状況把握・相談、進路だよりの発行による情報提供を行い、進路意識の向上に努めた。 ○ 入試の際に重要になってくる面接や小論文の指導を、1年次から系統的に実施するとともに、3年生の進路指導については、全ての教員が関わって全校体制で実施した。 ○ 学校評価アンケートでは、9割を超える生徒、8割を超える保護者が、「進路選択に必要な情報を得られている」と考えている。

学校経営	コミュニティ・スクールの仕組みを生かした地域連携の推進	<p>○コミュニティ・スクールの仕組みを生かした学校運営の改善</p> <p>○地域人材による学校支援や学校による地域貢献活動の推進</p>	<p>4:前年度に比べ、地域と連携した教育活動が増加した。</p> <p>3:前年度と同様に、地域と連携した教育活動が積極的に行われた。</p> <p>2:コミュニティ・スクールの仕組みを生かして地域と連携していく体制が整った。</p> <p>1:コミュニティ・スクールの仕組みが確立した。</p>	<p>4</p> <p>○ 学校運営協議会において、地域と連携した教育活動の推進方策や協力体制について協議し、コミュニティ・スクールの仕組みを活用して充実を図る体制が構築できた。</p> <p>○ 今年度も、新たな地域との連携や地域貢献活動を実施することができた。その中でも、ハロウィンかぼちゃを活用した地域活性化の取組は、高校生県議会や地域創生☆政策アイデアコンテスト(地方創生担当大臣賞受賞)での発表につながり、本校の取組を外部に発信することができた。</p> <p>○ 学校評価アンケートでは、9割を超える生徒・保護者が、「地域やそこに住んでいる人々への愛着や誇りが高まっている」と考えている。</p>	<p>○ 地域と連携した教育活動に積極的に取り組んでおり、生徒の地域に対する誇りや愛着が高まっている。</p> <p>○ 下関北高校の開校1年目で、先生方の業務が大変な中、地域連携等で素晴らしい取組が行われている。今後は、こうした活動をどのように継続していくかを考える必要がある。</p>	A
	志願者の増加に向けた学校の魅力発信	<p>○学校説明会、オープンスクール等の活性化</p> <p>○学校HPや学校通信による学校情報の提供、マスコミを活用した情報発信</p>	<p>4:学校の魅力を積極的に発信し、志願者が増加した。</p> <p>3:学校の魅力を積極的に発信し、志願者は前年度並みであった。</p> <p>2:学校の魅力を発信する機会が少なく、志願者は前年度並みであった。</p> <p>1:学校の魅力を発信する機会が少なく、志願者が減少した。</p>	<p>3</p> <p>○ 学校説明会では、今年度新たに授業体験を実施し、国語・理科・家庭に加えて、来年度から開講する商業の授業も行うなど、本校の特色ある授業を中学生にアピールすることができた。</p> <p>○ 昨年度以上に、HPの更新やマスコミへの情報発信を行い、本校の教育活動を外部に対して積極的に発信できた。</p> <p>○ 学校評価アンケートでは、8割を超える生徒・保護者が、「本校の魅力が積極的に発信されている」と考えている。一方で、志願者が伸び悩んでいる状況があり、大きな課題である。</p>	<p>○ HPやマスコミを通じて学校の教育活動を積極的に発信しているが、志願者が伸び悩んでいるという課題もある。</p> <p>○ ここ数年の豊北町の出生数は20人代であり、豊北町から志願者を増やすことは難しい。人口の多い豊浦町からの志願者をどう増やしていくかが課題である。</p> <p>○ 学校運営協議会の委員と教員や生徒で熟議を行い、学校の課題や志願者の増加に向けた方策について考えてみる。</p>	B
学校事務	事務職員と教員の連携強化による学校運営の活性化	<p>○事務職員と教員との連携強化による、学校教育目標達成のための効率的な予算執行の推進</p>	<p>4:連携を強化し学校教育目標達成のための予算執行を行うことができた。</p> <p>3:連携を強化し効率的な予算執行を行うことができた。</p> <p>2:連携は強化したが、学校教育目標の達成には至らなかった。</p> <p>1:連携の強化があまりできなかった。</p>	<p>3</p> <p>○ 下関北高等学校の開校に伴い、運営に必要な経費について積算し、部活動に伴う生徒移動経費を予算化することができた。</p> <p>○ 県教育委員会が募集した「教育活動充実支援事業」に応募し、「コミスク導入による下関北高校地域交流プロジェクト」での事業について、社会科教室にプロジェクター等を整備することができた。</p> <p>○ 県の極めて厳しい財政状況を踏まえ、県予算の削減が行われたが、教員との連携により効率的な予算執行に努めている。</p>	<p>○ 下関北高校の開校に伴う経費増に対し、県事業の活用や教職員との連携によって適切に対応している。</p>	A
	接遇の向上	<p>○来客に対する接遇の向上</p>	<p>4:来客等の接遇が大幅に向上した。</p> <p>3:来客等の接遇が向上した。</p> <p>2:来客等の接遇があまり向上しなかった。</p> <p>1:来客等の接遇が全く向上しなかった。</p>	<p>3</p> <p>○ 「来客等をお待たせしない」というコンセプトで接遇に取り組み、今年度からは職員朝礼後に事務室関係職員全員でミーティングを行っている。そのことにより、学校内外での行事や教職員の勤務動静など共有することができた。</p> <p>○ 今年度着任の臨時職員を下関地域連絡協議会主催の接遇研修に参加させ、接遇のスキルアップを図ることができた。</p>	<p>○ 接遇の向上に向け、職員の意識改革や研修への参加に積極的に取り組んでいる。</p>	A

業務改善	業務の効率化の推進	<p>4: ほぼすべての教員が前年度より授業や生徒指導など、生徒と向き合う時間が増えたと感じた。</p> <p>3: ある程度の教員が前年度より授業や生徒指導など、生徒と向き合う時間が増えたと感じた。</p> <p>2: ある程度の教員が業務時間(授業やその準備に係る時間を除く)が増え、忙しくなったと感じた。</p> <p>1: 多くの教員が業務時間(授業やその準備に係る時間を除く)が増え、忙しくなったと感じた。</p>	2	<p>○ 下関北高校開校の初年度であり、教育課程をはじめとする新高校の制度設計に取り組む必要があり、業務のスクラップ&ビルド等の効率化を十分に進めることができなかった。</p> <p>○ アンケートでは、本校の勤務環境・勤務実態について、多くの教職員が肯定的に考えているが、勤務環境については、一定数、良くないと感じている教職員がいる。</p> <p>○ 新たに導入した留守番電話やICカードによる勤務時間管理を円滑に実施し、成果を検証して、次年度以降の業務改善の取組を検討していく必要がある。</p>	<p>○ 現在の業務量を見直し、必要に応じて「スクラップ&ビルド」を進めて、業務の効率化を図る必要がある。</p>	C
	教職員の心身の健康の維持	<p>4: 教員の時間外業務が前年度の10%以上減少し、大きな成果が得られた。</p> <p>3: 教員の時間外業務が前年度より減少し、ある程度の成果が得られた。</p> <p>2: 教員の時間外業務は前年度と同程度であった。</p> <p>1: 教員の時間外業務は前年度よりも増加した。</p>	1	<p>○ 6月に「山口県立豊北・下関北高校 働き方改革推進プラン」を策定したが、取組を徹底することができなかった。</p> <p>【プランの内容】</p> <p>①最終退校時刻の設定(午後8時)</p> <p>②ノー残業デーの設定(給料日前後3日間のうち1日)</p> <p>③部活動休業日の活用</p> <p>④時差出勤の実施(長期休業中)</p> <p>⑤学校閉庁日の設定</p> <p>⑥年休・代休取得の推進</p> <p>○ 過去3年間、時間外勤務時間が増加している。</p>	<p>○ 業務時間削減に向けた取組は不十分であり、改善の必要がある。</p>	C

6	学校評価総括(取組の成果と課題)	<p>【教務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導や習熟度別授業、また個別指導により、個に応じたきめ細かい指導がなされ、授業評価アンケートや学校評価アンケート等で、生徒や保護者の大多数から肯定的な意見をj得ることができた。 ・全ての教科で研究授業・研究協議を行うとともに、学習指導要領の改訂や高大接続システム改革に関する教員研修を実施するなど、授業改善に向けた研修の充実が図られた。 ・学校説明会、オープンスクール、ホームページ、PTA新聞等で本校の取組を積極的に情報発信することができた。 ・来年度以降、2学年からコース別で授業が行われる。生徒のニーズや進路希望にあった授業内容を検討していく必要がある。 <p>【生徒保健】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の礼儀や規範意識の高揚は、生徒指導の根幹をなすものであり、今後も指導を強化していく。近年、学力幅や通学範囲に拡がりが見られるようになり、様々な価値観を持つ生徒が増加する傾向にある。今後は、ホームルームや学年団を中心に、生徒保健課と教育相談委員会が強力にサポートする体制を充実させ、全教員による、機動的な対応を心がけたい。そのため、教育相談機能の充実、家庭・地域・生徒指導諸機関だけでなく、小・中学校との連携を一層深め、生徒一人ひとりに対するきめ細かい指導を行ってきたい。 ・人間関係や安全上の諸問題の予防と対応のため、保護者会、学校安全アンケート、携帯・スマートフォン調査等を通じて、地域・家庭との双方向的な情報交換に力を入れたい。 ・ゴミの減量化については、生徒と教職員が一体となって、取り組むべき課題であり、意識啓発を積極的に行ってきたい。 <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験的な進路学習を系統的に実施したことが、生徒の進路や自己の在り方生き方に対する意識の高揚につながった。 ・進路だよりを16回発行したり、進路指導室を整備したりして、生徒が必要な進路情報を得られるよう工夫した。また、1・2年生全員と進路指導課長が面談する機会を設け、担任とも連携して、早いうちから生徒個々人の進路希望を把握し、適切な助言を行った。 ・下関北高校の開校に伴い、今後、生徒の進路希望が多様化してくることが予想され、個に応じた進路指導をさらに充実させていく必要がある。 <p>【学校経営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会において本校教育活動の推進方策や協力体制について協議したり、新たな地域連携・地域貢献活動を実施したりと、コミュニティ・スクールの仕組みを生かして学校運営を改善していく仕組みが整った。今後は、この仕組みを活用して、地域や中学校のニーズにより対応した学校運営の改善に努めていきたい。 ・学校の魅力を様々な方法で外部に向けて発信することができたが、依然として志願者は伸び悩んでいるという課題がある。志願者確保に向けた効果的な取組が必要である。 <p>【学校事務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の極めて厳しい財政状況により県予算の減額が行われたが、教員との連携を強めたことにより効率的な予算執行に努めることができた。また、下関北高等学校の開校に伴う予算についても一定の確保をすることができた。今後も厳しい状況が続くと思われるが、効率的な予算執行に努めていきたい。 ・「来客等をお待たせしない」というコンセプトで接遇に取り組み、今年度からは職員朝礼後に事務室関係職員全員でミーティングを行った結果、学校内外での行事や教職員の勤務動静など共有することができた。今後も学校の情報を共有することで、接遇の向上に努めていきたい。 <p>【業務改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留守番電話やICカードによる勤務時間管理の導入は教職員の意識改革につながった。 ・学校全体の業務のスクラップ&ビルドについては、新高校の開校年度ということもあり、十分に進めることができなかった。今後は、現在の業務量を見直し、スクラップ&ビルドを進めて効率化を図る必要がある。 ・「山口県立豊北・下関北高校 働き方改革推進プラン」を策定したが、取組を徹底できず時間外業務時間の削減につながらなかった。プランの内容を見直し、より効果的な取組を行う必要がある。
7	次年度への改善策	<p>①本校の特色である「個に応じたきめ細かい指導」が継続しながら、下関北高校の開校による生徒の学力幅の拡大や希望進路の多様化に対応できるよう、授業力や指導力を向上させていく。</p> <p>②来年度以降開講される商業科の科目やハンゲル、中国語、学校設定教科「地域探究」の円滑な実施に向け、授業内容や評価方法を確立する。</p> <p>③教育相談機能の充実とともに、保護者会や各種アンケートを通じた家庭・地域との双方向的な情報交換を充実させ、人間関係や安全上の諸問題を予防する。</p> <p>④下関北高校の開校に伴い、多様化が予想される生徒の希望進路に的確に対応できる進路指導システムを構築する。</p> <p>⑤コミュニティ・スクールの仕組みを活用して地域連携・地域貢献の更なる充実を図るとともに、志願者の増加に向け、本校の良さを積極的かつ効果的に発信していく。</p> <p>⑥施設設備について、営繕及び安全点検に努めるとともに、予算が必要なものは優先順位を明確にして県へ強く要望する。</p> <p>⑦「山口県立豊北・下関北高校 働き方改革推進プラン」をより実効性のあるプランに見直し、時間外業務時間を削減する。</p>